

## 編集後記

会員各位のご協力、有識者の方々のご寄稿、および広告を掲載して頂いた企業のご援助により BM News No. 43 もようやく発行に至りました。深く感謝申し上げます。

BM 素心は荒井賢一先生(東北大学名誉教授)にお願いしたところ快くお引き受け頂きました。先生は私の恩師でもありまして、これまでも色々ご相談させて頂きました。今回は当協会が新たな分野の一つとして関心を持っている電磁波吸収材料の開発に関する話題に触れて頂きました。電磁波吸収材料の研究は、最近その重要性が一段と増しており、電磁波の外部への放射を抑えてしまう磁性電磁波吸収材料に大きな期待が掛けられていること、そのために、GHz 帯域以下では磁性超微粉末材料などを、誘電特性を変えた絶縁性マトリックス中に練りこんだ複合電波吸収材料の研究が重要であることなどが指摘されています。

昨年 11 月に行われた事業仕分けについては、荒井先生ご自身の経験を基にしたお話が書かれており参考になりますが、賀詞交歓会の記事に載せました原田 CEO のご挨拶で、「[No.2 でなぜいけないの]と事業仕分けで主張した人がいた。国際競争社会では、No.2 を目指したとたんに、20 位、50 位。No.1 を目指しても、上手く行ってやっと 2 位か 5 位。「少ない予算でも何とか工夫して、No. 1 になってください。」と言うべきです。」という内容は大変共感するところであります。

また、芳賀会長のご挨拶にある、「今年も厳しい経済環境が続くと思いますが、各社の技術力強化が課題。新製品開発や新市場の開拓は、情報集めだけに終わらず、自分の頭で考え・行動することが、今年特に要求され、技術力強化に最も重要。」ということも心に留めておきたいものです。

9 月の技術例会「ハードな研究開発が支えるソフト磁性材料の進展」12 月のシンポジウム「イノベーションで切り拓く磁性材料とその応用技術」でのご講演の一部を BM NEWS にご執筆頂きました。材料、応用製品、測定技術など多彩です。会員の皆様のご参考になれば幸いです。

機関紙編集委員長

大森 賢次